

保育計画成果報告書

法人名等	特定非営利活動法人うていーらみや
施設名	にぬふあ保育園
報告者（役職）	北村 健（副園長）
住所・連絡先	沖縄県那覇市具志2丁目20番46号
	☎ 098-987-4556
	E-mail takeshi.kitamura@utiramiya.com

○タイトル（保育計画）

「いろみずできた！」沖縄の空と風と自然を感じる園庭



○主な助成備品

砂場、鉄棒、がじゅまる（榕樹）

1. 保育計画策定の目的

子どもの育ちに豊かな体験を提供したいという思いから、五感を十分に使って遊べる園庭整備計画案を検討し、子どもたちの外遊びにおける遊びの選択肢を広げるため、砂場、クライミングネットの設置、鉄棒の導入、沖縄の自然を身近に感じるシンボルツリーの植樹を計画した。

2. 具体的な実施内容

- ① 砂場の設置・・・園庭に砂場を設置し、砂場遊びに使う道具も砂場の近くに片づけるようにした
- ② 鉄棒の導入・・・鉄棒を園舎1階と2階のデッキテラス（半戸外）に設置し、雨の日でも鉄棒を使って遊ぶ身体プログラムができるようにした
- ③ シンボルツリーの設置・・・駐車場から園舎入り口へ向かうスロープ中ほどの園庭に、高さ2.7mのガジュマル（榕樹）を植えた

3. その成果と評価

<砂場の設置>

開園当初の園庭は、雑草と赤土・砂利等園舎新築工事のままの姿で子どもたちの遊びを誘発する材料に乏しかった。砂場を設置することにより、園庭遊びの選択肢が増えた。砂や水に触れて遊ぶことで、触覚を刺激する遊びが増えた。土や石などの自然素材を加え、形状や色彩の違いを楽しんだ。また、器具を合わせて使うことで技巧性が高まることに加え、重さや量・形状や性質の変化を学ぶことができた。



<鉄棒の導入>

鉄棒を園舎デッキテラスに設置することで、雨の日でも鉄棒で遊ぶことができた。各クラス自由保育時間や運動遊びの時間などで鉄棒を使用し、プログラムを実施した。鉄棒にぶら下がるだけでも子どもたちの体幹・指先から足指まで意識の仕方を身体遊びとして楽しみながら身につけることができた。



<シンボルツリーの設置>

園庭に目印となる大木が植えられた。根付くまでに時間を要するため、まだ木登りなど子どもたちが直接木に触れて遊ぶことは少ないが、木登りは身体制御や危機回避能力を伸ばすほか、空間把握の力が育つことが期待される。子どもたちは工夫して足場板を渡し、滑り降りるなど高さの違いを楽しむ遊びを展開している。今後、しっかり根付き、何人もの子どもが木登りに挑戦し、満足げな表情を見せてくれることが期待される。



4. 今後の課題と展望

今回購入予定であったクライミングネットは設置業者との調整が間に合わず、購入できなかった。今後、子どもたちの園庭遊びの様子を観察し、設置場所やクライミングネットの大きさを再検討し、調整を進めていきたい。

購入設置した砂場・鉄棒・シンボルツリーは、子どもたちの心身の成長に必要な感覚刺激、体験を支えてくれる大切な保育材料になると考えられる。今後も各クラスの保育プログラムの中で活用していきたい。

以上